

令和4年度厚木市公共下水道事業決算の概要

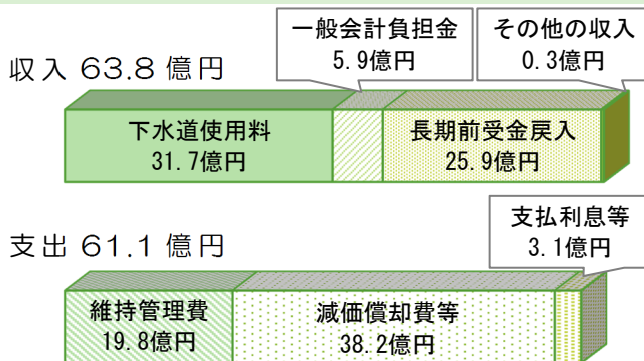
令和元年度に着工した、厚木排水区浸水被害軽減対策のための雨水貯留管が完成しました。また、令和3年度に引き続き、雨水管整備工事、市街化調整区域の污水管整備工事、管渠の長寿命化・耐震化のための改築工事等を実施しました。

1 業績ハイライト（前年度比較増減）

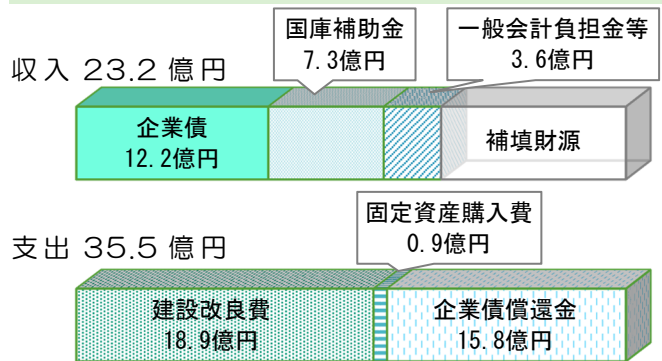
有収水量	2,574万 ^m ³	(△28万 ^m ³)	処理区域内人口一人当たり351.8ℓ/日
維持管理費	18.3億円	(+1.7億円)	流域下水道負担金増など（税抜）
投資額	19.7億円	(+2.8億円)	管渠建設費増（税込）
収益	60.9億円	(+0.2億円)	雨水処理負担金増、下水道使用料減など
費用	59.2億円	(+1.4億円)	流域下水道負担金増など
当年度純利益	1.7億円	(△1.2億円)	企業会計移行後、3年連続で純利益計上

2 収支の状況

収益的収入及び支出（税込）

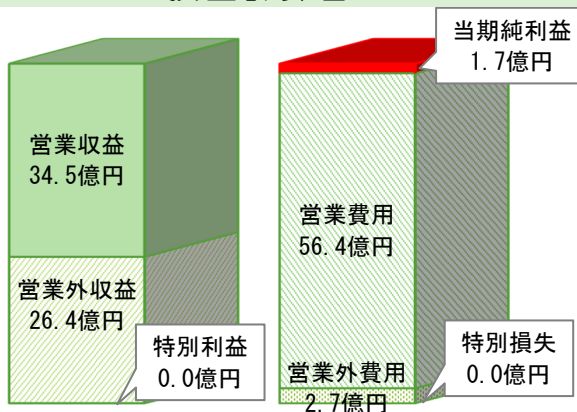


資本的収入及び支出（税込）

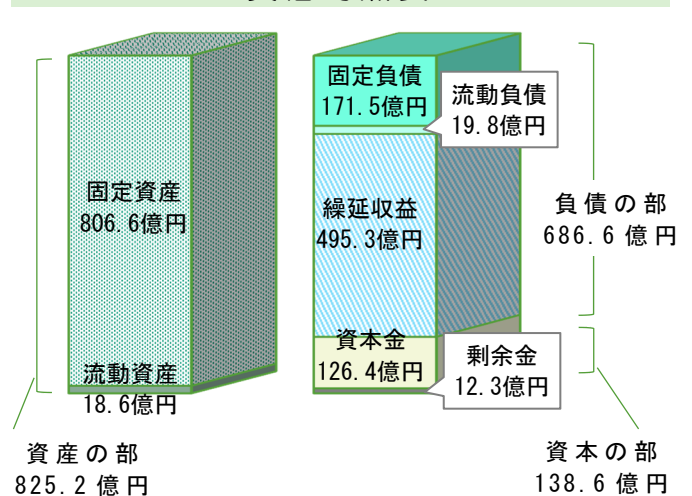


3 財務諸表

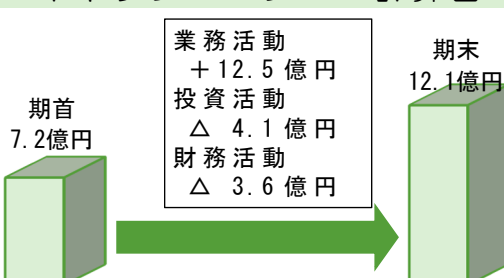
損益計算書



貸借対照表



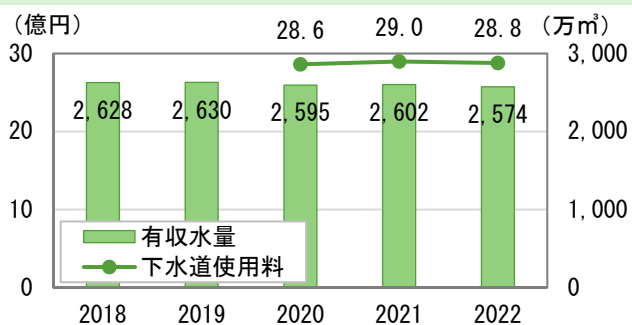
キャッシュ・フロー計算書



注) 各数値を四捨五入しているため、合計額等と一致しない場合があります。

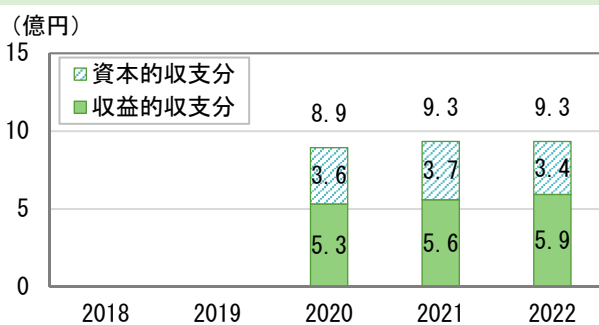
4 経営指標等の推移

有収水量と下水道使用料（収益）



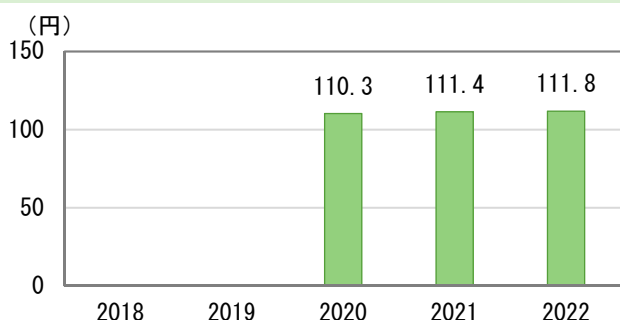
家庭汚水の減少により有収水量は1.1%減少しましたが、大規模事業所からの排水量が増加し、下水道使用料は0.7%の減少にとどまりました。

一般会計からの繰入額



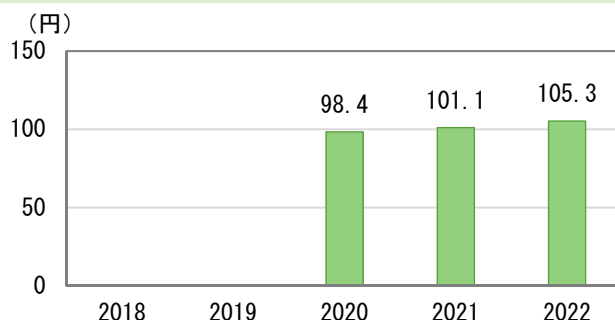
総務省が定めた基準に基づき、一般会計から繰り入れたもので、令和3年度と同程度となりました。

使用料単価



厚木市では、排水量が多いほど単価が高くなる累進性を採用しているため、大規模事業所からの排水量の増加に伴い、0.4円上昇しました。

汚水処理原価



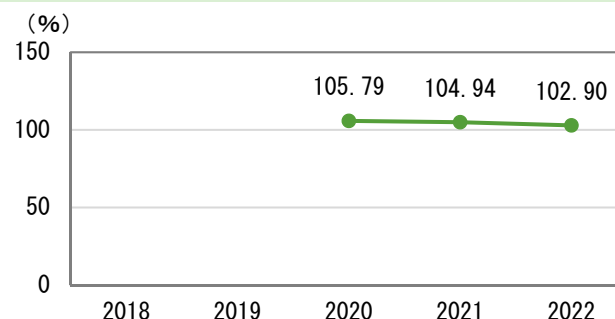
電気料金高騰の影響を受けて流域下水道負担金が増額となったこと等により、汚水処理費が増加したため、4.2円上昇しました。

経費回収率



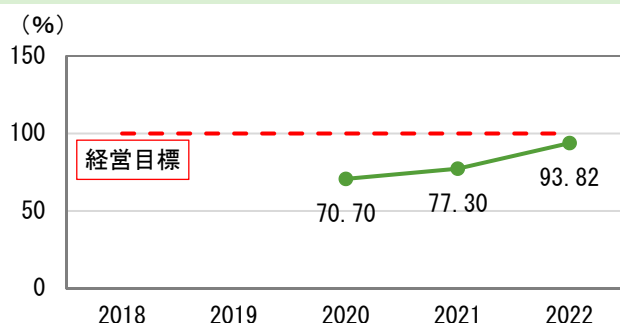
費用の増加により前年度から3.96ポイント低下しましたが、経営目標の100%以上を達成し、健全な経営状況が保たれています。

経常収支比率



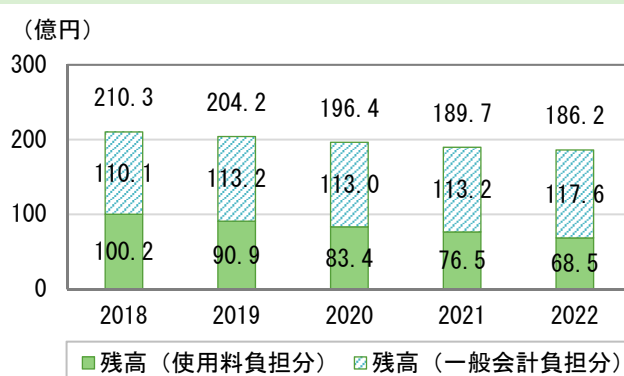
前年度から2.04ポイント低下しましたが、単年度収支が黒字であることを示す100%を上回りました。

流動比率



経営目標の100%を下回っていますが、前年度から16.52ポイント上昇しました。流動負債19.8億円のうち、翌年度に償還する企業債が14.7億円を占めています。

企業債残高



汚水管を整備していた時期の企業債の償還が進み、企業債残高は3.5億円減少しました。